町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会

第２回議事

平成 22 年 11 月 11 日 18:00～20:20
町 田 市 役 所 森 野 分 庁 舎 2 階 第 3 会 議 室

配布資料

資料１　第一回議事録（概要）
資料２　第一回議事内容の整理
資料３　博物館の役割と動向に関するレポート

１　前回議事内容の確認

事務局より、前回の内容の確認。

２　市長との対談と施設視察の報告

11 月 5 日（金）、当委員会と市長との対談を実施した。市長の主な発言は、町田市の文化施設が全体に規模が中途半端であること、薬師池公園にある施設をそれぞれ単体ではなく全体として機能させることが重要という 2 点だった。また、博物館、自由民権資料館、忠生がにやら自然館、国際版画美術館の施設視察も実施した。

鈴木良明委員長：　市長との対談で私のほうから申し上げたのは、100 年 200 年先を見通した博物館の建設をすべきではないかということです。また、施設の性格に応じた役割分担についてのご発言もありました。施設見学では、特に博物館は劣悪な環境だということを感じ、これが今回の構想委員会につながっているという印象でした。

前島正光委員：　博物館には、貴重な資料が適切に保存できない、燻蒸が十分にできない、保管や史料の運搬の問題など改善すべきところがたくさんあるように思います。自由民権資料館につきましては、建物の状態が閉鎖的で、ちょっと行きにくい場所だなと感じました。

渡辺一雄委員：　私は国際版画美術館に行って、何と贅沢な施設かなと、驚きというよりも感動しました。そして、この人口を擁する自治体の中での市立の博物館像について、一つの回答を得たように思います。単独の博物館機能でやるというのは、やはり市民と直結するという形においては、ちょっと狭すぎる考えじゃないかなと。

自由民権資料館については、もう少し学校や歴史の先生方が関心を持って、明確な郷土学習のスローガンを出していく必要があると思います。自然系は、学芸職の方がおられなかったという点で物足りなさを感じました。

市長がおっしゃっている「中途半端だ」というのは、片方に国際版画美術館のようなものがあるかと思えば、専門職のあまりいない自然系のいくつかの施設が、ちぐはぐな状態で存立しているという点でしょうか。

小瀬康行委員：　一般に公開されている部屋とバックヤードの落差というのは、こんなにあるものかなというのが率直な印象でした。博物館では展示室というのは一番力を入れるところですが、バックヤードがあってはじめて展示という活動ができるわけです。市長さんはじめ皆様は、ぜひバックヤードをご覧になったらいいなと。

山口有次委員：　特に収集と保存の部分が劣悪な状況にあることは間違いないと思います。また、多くの市民の方に来てもらうというという視点からいうと、立地も、施設の規模や利便性も、バリアフリーの点もひどい状況にあるので、何とかしないと文化都市の顔といえないんじゃないかというような印象を持ちました。

濱田隆委員：　市長に博物館の実情を知っていただくために、その経緯を説明しました。即ち、町田市の博物館は、郷土資料館として考古、民俗など当時散逸が危惧されたものを早急に集結する必要があるということから始まり、いわば時間に迫られて応急に作ったという性格であること、それを博物館という名前にしたわけですが、施設そのものは当初のままで全然変わらなかったというところに問題があることをお話しました。なお、国際版画美術館が大変立派に構築されたというのは、やはり博物館の不備を補完するという反省の意味合いがかなり強かったのではないでしょうか。博物館は出発点当時の経緯を引きずったままに、今日の諸問題が起こるべくして起きたと思います。

３　博物館の役割と動向に関するレポート

事務局より、博物館の役割と動向について説明。事例紹介として、①兵庫県伊丹市「鳴く虫と郷町」、②千葉市立科学館の製鉄体験講座、③中央区のまるごとミュージアム活動を紹介。

４　議　事

鈴木良明委員長：　事務局からの報告と先生方のご意見を踏まえて、市民にとって活用しやすい博物館像について議論をしてみたいと思います。人々の生活を豊かにするという目的で博物館、美術館が造られるというのは、当然ありきだろうと私は思います。実物を見て感動をする。これは非常に、人の心に訴えることだと思います。また、それを元にして研究や教育活動が展開できれば、まさしく人々の生

活、向上に寄与するのだということです。これは、総論としては博物館の存在意義になるだろうと思います。

さて、市民が積極的に参加できる博物館の在り方について、委員の皆様はどうお考えでしょうか。

前島正光委員：　毎回サブテーマをつけるのはいいのですけれども、もう少しいろいろな意見を委員の方々から出していただいたほうが、まとまりがいいのではないでしょうか。本質的なところをしっかりみつめていくために、もうちょっとフリーにディスカッションができればというふうに思います。

山口有次委員：　マーケティング的には施設の問題がまずあります。その次に、市のビジョンがあり、どういう機能が博物館に求められているかという社会的な背景があります。そして競争相手となる周りの市がどういう博物館を持っていて、町田市の博物館はどういう位置付けにするべきかということがあります。

アイディア先行で散発的に議論してしまうと、全体的にまとまりがよくないと思うので、いま申し上げたことを踏まえて、自然な流れで考え方を整理していくといいのではないですか。

鈴木良明委員長：　社会的な背景としては、昨今の博物館に対する期待がございますね。学校教育や市民との連携が、おそらく豊かな生活に繋がるのだと思います。そうした社会的な背景を、先生方がどう考えられるかをお話しいただくのがいいと思います。また、資源としては、今まで町田市の博物館等々が収集・展示してきた資料、あるいは情報も含めて、どういう博物館が必要なのか。

渡辺一雄委員：　やはりお宝に着目するということが重要かと思います。市民にとって本物を見せるための決め玉は何かというと結局、本物、一流のものです。お宝はどういう光を放っているのかについて、きちんと押さえる必要があるでしょう。そのためには、お宝を見極める優秀な学芸員、つまり「人」が必要です。「魂をつぎ込む学芸員を真剣に探すつもりはあるのか」ということを原点からみつめるべきだと思います。

きらりと光る、やる気のある学芸員がいるのかいないのか。宝があり、人がある。その 2 点について徹底的にレビューして、市長に意見を突きつけるくらいの気構えがないといけないのではないでしょうか。

小瀬康行委員：　今お宝とは全く正反対のことも、事例にあったと思うのですね。伊丹の「鳴く虫と郷町」の事例ですけれど、何か新しい企画を作りたくても、お金がない。そのデメリットをどうやってメリットに変えることができるのかを問いつめていった結果、鈴虫があるではないかという発想に繋がったと思うのです。

お金をかけなくても、みんなで一致して、虫に関係するイベントを、とにかくいろいろ集めてやれば、あれだけのことができる。結果として立派な町興しになったわけですよね。そういう発想って、いまこういう財政状態の中で、一

番大事じゃないかなという気がするのです。

お宝はもちろん大事ですけれど、正反対のものも逆にいうとお宝なんですよね。個性を活かすことは大切ですが、伊丹の場合、最初、個性はなかったわけですよ。ではどうしたらいいかということで、鈴虫がでてきた。それが個性になったわけです。そういう発想というのは、おそらく町田でも有効です。

渡辺一雄委員：　自由民権資料館に行った時に思ったのですが、玉川学園の博物館にも、自由民権運動や、寺子屋など江戸期の民衆教育の資料があります。自由民権資料館と玉川学園とでリンケージすれば、春休みにマイクロバスを回して、それぞれの歴史や郷土の誇りを教育上活かせるツアーが組めるのではないかなと。

だけど、学校の先生が忙しすぎて、到底そこまで至らない。いわゆる、宝の持ち腐れ現象が起こっています。ものはあるんだけれど、それを活かせるアイディアと情熱と、それだけの体制がないのです。学校にもっとがんばってもらうためにも、市長の考えておられる機能活性化をもっと学校教育に活かすという方向性を明確にするべきです。そのための具体的な企画、イベントをやっていく積み上げも必要でしょう。

事務局（落合）：　町田の中には、考古資料室、自由民権資料館、国際版画美術館など博物館機能を持っているところがいくつかあります。それらが、資料の収集や保存、展示などを独自にやっておりまして、連携ができていません。それで、今回、それぞれの施設の類似施設の評価をしていただいて、町田の博物館の新しい在り方についてご検討いただければと思います。お宝が眠っているというのも、なかなか素人には分かりません。そういうものがあれば、いかに活用できるのだろうかということも含めて、ご意見を出していただきたいと思います。

町田の独自な施設がいろいろなところに散らばって、一つの博物館みたいなものができているのですけれども、それを、もうちょっと整理をしていただきたいのです。私どもでは、そういう個別のことを大きなところから見ることができないものですから、そんなようなお力をいただきたいですね。

鈴木良明委員長：　整理のあり方としては、そういうことを整理していくのだろうと思うのですけど、大前提のところでね、今、ご意見が出ているわけでございまして。人の問題、学芸員の問題、あるいは、お宝の評価ですね。あるいはまた、学校教育との展開といいましょうかね。それは、本気でやってくれるのかどうかということに繋がるのだろうと思うのですけど、最終的には委員会の答申という形になっていくのだろうと思うのですが。

濱田隆委員：　現在、いろいろな博物館施設が町田市の中にあって、非常に未整理の状態にあります。施設それぞれの役割がはっきりすれば、もう少しいろいろな課題が浮かび上がるでしょう。

博物館にとっての資料の収集保存ということが非常に大事であるという、基本的な認識が重要です。特に、歴史資料の散逸をどこかできちんとフォローし、整理する中心的な施設があっていいのではないでしょうか。

それから、在り方という点で思うのが、やはり町田市はベッドタウンであるということ。ここに憩いを求めて帰ってくる人が多いと思うのですね。ですから、憩いの場、ゆとりのある空間が基本的に備わっていないと、博物館のあり方としては不十分ではないかなという感じがしています。やっぱり薬師池公園とか公園地区みたいなところに文化施設が集約されるというのは、一つの大きな姿じゃないでしょうか。

山口有次委員：　憩いという意味でいいますと、展示とか教育には、いかに楽しませるか、学んでもらう、遊んでもらうかといった機能が相当入ってこないと、今の社会や住民ニーズにはもうついていけない。たとえ本物を置いても、本物をいかに伝えるかというところが抜けていると、なかなか分かってもらえません。

それは非常にもったいないので、博物館の建物を作る前に市民を巻き込むムーブメントを作る活動を提言し、学校も、公園も、商店街や駅も、いろんな場所が博物館に変わっていったらどうかと思いますね。

篠原やよい委員：　町田に住む子どもたちを、ある種の知を追求していく子どもたちに育てたい。ここに住んでいる子どもたちが、芸術に触れたり知を求めたりする。そういうチャンスが欲しいとつくづく思います。でも、その機能の全てを、学校教育に置くというのは非常に難しいことです。学校が協力しながら、子どもたちの知への欲求を掘り起こして、それを深めていくような活動を行うために、点在しているいろいろな文化資源を、知のネットワークとして活用できたらいいなと思います。

そのためには、まず、各施設を活用する教育関連のプログラムを提供する必要があります。また、そうしたプログラムを開発・提供する情報センターの機能も必要です。情報センターができてプログラムが提供されれば、ちょっとずつ、子どもたちがそのプログラムにのって活動していくと思います。

同時にもっと必要なのは、大人のプログラムじゃないでしょうか。子どもの知への欲求や現実への欲求を掘り起こしていくのは、実は大人なんです。大人をしっかりとプログラムに乗せて楽しめる、知への欲求を満たしていくような、そういうプログラムの提供が必要だと思います。

さらに、町田市にたくさんある、非常に高度で豊かな縄文の資料をどうするのかということを、ぜひ考えていかなければなりません。また、町田を良くしたいと思う同じ立場で、博物館や、美術館やさまざまな文化施設を、市民と行政が一緒に作っていく。同じ町田の文化の生産者になるという、人的なネットワークを作ることが不可欠じゃないでしょうか。

プログラムの開発は一緒に相談したり協力したり十分できると思いますが、ひとつの学校単独では作れません。

事務局（水嶋）：　生涯学習のカリキュラムに関わる情報を一元的に管理・提供していくプログラムを検討しています。生涯学習は幅広く、庁内の文化スポーツ振興部や、版画美術館、博物館の講座や講演事業、市長部局の中の高齢者福祉関係の事業、児童・子どもの関係など、いろいろな生涯学習教育が多部署で行われています。そこを整理し、さらに町田市の周りにある大学で行われている生涯学習等の事業についても、情報収集、発信提供を行っていく考えです。

現在、生涯学習部の生涯学習課で、玉川大学や桜美林大学にも情報提供していただいて、生涯学習ナビという無料の冊子を作っております。版画美術館に関わるインタビューを特集として掲載したこともあります。いまは雑誌なのですが、さらにもう一歩進んで、生涯学習に関わる情報を集約できればいいと動き始めているところです。

鈴木良明委員長：　生涯教育というか社会教育と、それが求められている博物館というふうに認識するかどうかですね。その辺は、もう一度議論する機会があろうかと思います。

本日は、博物館等のあり方について、少し総論的にお話をいただきました。ニーズの問題もあるし、資産、資源の問題というものがあります。それから、協働というのでしょうか、そういうキーワードも出ましたし、いろいろな期待、ニーズがあるのだなということを、改めて承知した次第です。

それとともに、資料や、地域にあるいろいろな施設との機能の分担、それから博物館がどういう機能を負っていくかというのは、多分リンクをしてくるところだろうと思います。次回のテーマとして、役割分担ということを深めていけるかなと思います。大前提として、市がどういうふうに、これに向かうかというようなことが根本にあります。この委員会としてはきちんと提言をしていきたいと思います。

前島正光委員：　議事録に関しては、私は時系列でまとめていただくほうが、より正確なものができると思います。非常に集約されると、ちょっと本意とちがう雰囲気がでることが多いんですよ。

それともう一点ですが、場合によっては少し時間を延長してでも、議論を深めていただきたいと思います。時間がないということで議論を切られてしまうと消化不十分なので、うまく処理してください。

鈴木良明委員長：　事前に、先生方の論点を事務局の方に挙げていただくことはできませんでしょうか。一応、事務局で示された検討事項があるのですが、個別に議論したいところを逆にご提案いただいたほうがいいかなという気もいたします。

小瀬康行委員：　前回配布されたアンケートがありますね。あのアンケートは、ものすごく時

間をかけて、内容も凝って、いろいろな意見が書かれています。あれをもっと参考にして議論を進めてもいいんじゃないかと思います。

山口有次委員：　収蔵資料の効果そのものは、この場でも私は専門家じゃないので、全く分からないので、専門家の方に別個、評価してもらわなきゃいけないんじゃないでしょうか。

鈴木良明委員長：　はい。他に何かご意見ございますか。よろしゅうございましょうか。それでは、大変長時間に渡りまして恐縮でございました。第２回委員会、これで終わりにさせていただきます。ありがとうございました。